

さるかどした

号外

八戸医療生活協同組合
〒031-0001
八戸市類家5-38-20
TEL71-3456
Fax73-1175
発行責任者 内田弘志

竹本所長を先頭に連日被災された組合員さん訪問

22日には訪問看護ステーションの看護師と通所リハビリテーションの職員が新湊地区の組合員さんを訪問し「体調は大丈夫ですか」と声をかけながら血圧測定を行いました。



↑ 竹本所長は19日、鮫公民館で避難されているみなさんの健康チェックをおこない、激励しました。診療所の看護師が同行しました。市内には9か所の避難所があり、機会を見て引き続き訪問する予定。

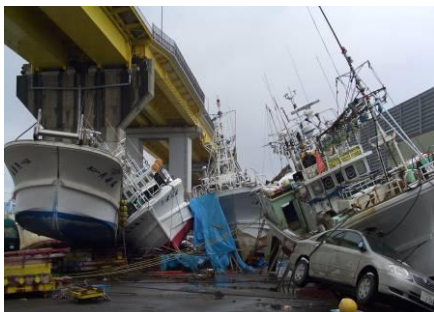


15日、16日、内田副理事長は組織担当職員とともに床上浸水など被害の大きかった江陽、新湊地区の組合員さんを廻って激励しました。廃棄される畳や家具類などが瓦礫の山のように道の両側に積まれていました。



6支部(湊、白銀、江陽、小中野、二中、下長) 2地区(鮫、市川)で組合員宅が浸水など被災に想像に絶する大震災となりました。海辺近くに居住している組合員さんも床上、床下浸水をはじめ、漁船や自家用車、家具、物置小屋などが流されるなど甚大な被害を受けています。医療生協本部では、竹本診療所所長(理事長)を先頭に役職員が連日被災の大きかった支部・地区に足を運び激励しています。

被災された組合員の皆さまに心からお見舞い申し上げます



津波に押し流された漁船とマイカーがひと塊りになっている

海に面する支部も支部長を中心に被災の有無、安否確認などで動いています。特に一人暮らしの高齢組合員さんの安否を気遣い、自宅に泊まってもらった支部もあります。「さるかどした」を配りながら被害の状況を支部長に連絡し、対応している支部もあります。

支部も被災状況把握に



一通り後始末の終わったところで組合員さんから困っていることなどを聞く職員(右二人)

急きよ灯油を届ける 《新湊地区》

電気が通りコタツで暖をとる組合員さんからストーブの灯油で困っているとの訴えに、訪問した職員は荒岡専務の指示を受けて急きよ二軒に支援の灯油を届けました。

県医連から八戸支援に

24日、市川地区の組合員訪問に県医連本部から野村事務局長と事務局員の岩本さんが参加し、内田副理事長、木村事務局長、看護師の医療生協訪問団に同行し、床上浸水など大きな被害を受けたみなさんを激励して回りました。2メートルを超える津波の後始末に朝から追われ、夕方には避難所で暮らしながら頑張っています。



二階への階段中ごろまで津波が押し寄せたと言います

被災者の医療費猶予に

八戸市は災害救助法適用により国保加入の被災者について、当面5月末までの診療分、調剤分、訪問看護分の支払いを猶予します。厚生労働省からの通達に基づく措置です。被災者の要件は、住家の全半壊、全半焼又はこれに準ずる被災等の申し立てをした者となっています。また、後期高齢者医療や介護保険についても減免措置があります。

※詳しいことは下記へ問い合わせください。

- ・生協診療所 44-0278
- ・居宅介護支援事業所 71-2411

職員チームが

31日まで地域訪問

診療所の看護師をはじめすべての事業所の職員で三名ずつのチームをつくり、22日から31日まで新湊地区など被災地域を訪問し、血圧測定や健康相談などの支援を続けています。

救援募金に

全支部で取り組もう

すでに職員は8万円余を県医連に届けました。診療所待合室にも募金箱を置いて呼びかけています。四月九日の理事会を経て各支部にも取り組みを要請する予定です。

被災された組合員さんに困っている相談事があったらお知らせください。(本部)